

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	詳細説明は無いが、構造はオーソドックスで問題ないと判断。 可動席方式:不明 フィールド昇降:全面
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	記載なし。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	スカイテラス、スカイガーデン、バンケットホール等各種施設を備え、50のVIPルームと50のコーポレート向けスイートを確保、スポーツ以外の記載は若干にとどまるが、商業機能等は南側に集中配置。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地中熱利用についてのキーワードのみ
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	曲面架構の脚部の十分な検討や部材断面のサイズアップ、ダブルレイヤーなどの架構の検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	詳細説明はないが、2分割長辺スライド方式で技術的な問題はないと判断。開閉屋根架構の剛性を高めるために部材断面、トラスせいを十分大きくする必要がある。 可動屋根方式:長辺スライド方式 仕上材:不明
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	構造の機構、外装材の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
	施工性や工期等に関すること	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。アリーナの床の上下機構について、維持管理面で検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	最高高さが規定の高さを超えている(約80m)
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策		△	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) ■■■■	○	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。	○	詳細説明無。図面から判断するにオーソドックスな形式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	オーソドックスな範囲。
3)可動席を利用していない時の雰囲気に支障はないか。	○	ない。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		オーソドックスな方法であり、特に問題は無。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		オーソドックスな方法であり、特に問題は無。
		オーソドックスな構造デザイン
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) ■■■■		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 ■■■■	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	・要項「想定アクセス図」と同じ歩行者動線が提示。プラン判読から、東京体育館及びバスケット場につながるデッキレベル歩行者動線を提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	・車動線:外苑西通り線からアクセス。区道43-980からサービス動線。駐車場:建物外周のデッキ下GL及びB2に確保(台数表示なし)
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	・VIP、競技者、メディア等の来場目的別アクセスを提案。
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 ■■■■	○	要項内容を踏まえて作成している。
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	・プラン・パース判読:関連敷地と連続するデッキレベルにオープンスペースあり(人だまり空間)という表示はなし)

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	記載なし
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	スカイテラス、スカイガーデン、バンケットホール等各種施設を備え、50のVIPルームと50のコーポレート向けスイートを確保
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート開催等若干の記載にとどまる
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	○	リテイルモール、ミュージアム等を南側に配置
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	雨水再利用、自然換気、太陽光発電(2MW以上)、自然採光、地熱利用、再生材の利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	スカイガーデン、日本庭園(竹、桜、松)
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	ETFE膜の光透過による芝生の育成、という記載のみ

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムとしては、改善すれば成立する可能性はある。曲面架構の脚部の十分な検討や部材断面のサイズアップ、ダブルレイヤーなどの架構の検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉屋根の詳細がないが、概念図から判断すると開閉屋根剛性などの改善により可能となる可能性がある。開閉屋根架構の剛性を高めるために部材断面、トラスせいを十分大きくする必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	南側の日射確保の屋根開閉とはなっていない。ただし、南側スタンドを取りやめたり配慮をしている。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	長刃スライド方式、2分割。詳細は不明だが屋根空間に収納。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。	○	要さない。オーソドックスな構造。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		通常の方式であり、管理手法もあり、問題ない。
		オーソドックスな構造。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	構造の機構、外装材の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	外装材の素材の選定には留意が必要
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。アリーナの床の上下機構について、維持管理面で検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	駐車場、店舗等が計画されており、工事時期を検討しておく必要がある。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	アリーナの床の上下機構について、検討が必要である。(維持管理面)
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	外装素材の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	最高高さを超えている
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超えている(約80m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	VIP用、関係者用出入口を、各々外苑西通り側に設置、一般車駐車場出入口は南側の区道43-690に出入口を設置
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	トンネルによるアクセスを提案
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、屋根の張り出し形状、都道418号上空デッキ形状より、確保できない可能性がある。新宿区分は関連敷地も含め確保できる可能性がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	通常技術に基づく。 可動席方式:不明
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	歩行者の駅との接続、車両動線の配置など不明瞭。調整を要す。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	△	上部側面が開放されているので遮音について検討が必要。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	ホスピタリティ関連機能に関する具体的な提案が全体的に少ない。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地中熱利用、居住域空調のキーワードのみ
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	×	曲線状の水平トラスで大空間を持たせるには部材追加、部材断面増大、トラスせいを大きくするなど十分な検討と改良が必要。 また、スポーツ庭園部分の荷重が課題であり、これを支える支持架構に相当大幅な改善が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	詳細は不明。スタジアム天井上部のみが小割スライド方式で開閉。 可動屋根方式:小割スライド方式 仕上材:ETFE・ガラス等
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	×	屋上計画に過大な計画がされており、コストも計画額を超過(+19,492百万円)している。維持管理についてもオイルジャッキやコンピューター制御に係る負担が懸念される。
	施工性や工期等に関すること	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。但し、スタジアムと屋根架構の同時施工の可能性の検討の余地はある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	部分的に規定の高さを超えている(全面的に高さ55m)、壁面後退距離が一部不足。
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要。
施設構成		△	面積不足の可能性、要調整。屋上への過大な施設配置は懸念。
スタジアムへのアクセス		△	駅との歩行者動線、車両動線が不明瞭について要調整。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。屋上に多数の人を上げることへの懸念あり。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧。

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	有。詳細不明だが通常技術に基づくものと推察。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	可動席ユニットの組合せで対応しているようである。
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	問題ない。
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。問題ないと思われる。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。問題ない。
		良くわからない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	歩行者の駅との接続、車両動線の配置など不明瞭。調整を要す。
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	スタジアム周辺は地表からの全方向アクセスであるが、駅とをつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	車両動線及び駐車場配置が不明瞭。西側よりVIPを誘導のコメントのみ
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	△	上部側面が開放されているので遮音について検討が必要
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	ホスピタリティ関連機能に関する具体的な提案はほぼ見当たらない。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	具体的な提案に乏しい。芝生の扱いも不明。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	具体的提案なし
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	クールビット、地中熱利用、躯体蓄熱、自然換気、太陽光発電、居住域空調、ナイトパーージ+屋根散水、雨水再利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	居住域空調あり。有効な空調を行うための閉じた空間が構成できるか検討を要する。
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	グリーンランドスケープ
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	×	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	×	曲線状の水平トラスで大空間を持たせるには部材追加、部材断面増大、トラスせいを大きくするなど十分な検討と改良が必要。スポーツ庭園部分の荷重が課題であり、これを支える支持架構に相当大幅な改善が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉屋根の詳細がないため、開閉機構の実現性の判断が不可能である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開閉屋根の詳細がないため、南側日射を確保した屋根開閉機構であるかの判断が困難である。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	オイルジャッキやコンピュータ制御のメンテナンス費用に負担が大きいと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	スタジアム上部のみ小割スライド式で光量調節も可と思われる。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。可動屋根自体はそれ程特殊ではなさそうだが、詳細は不明。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		上記、雨漏など大丈夫か。スライド方式の詳細が不明。
		全体地区を屋根でカバー。スタジアム上部は小割スライド。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	×	屋上計画に過大な計画がされており、コストも計画額を超過(+19,492百万円)している。維持管理についてもオイルジャッキやコンピューター制御に係る負担が懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	詳細不明
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△(×)	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性や、開閉機構を検討する必要がある。工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。但し、スタジアムと屋根架構の同時施工の可能性の検討の余地はある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、詳細工程の検討が必要である。但し、スタジアムと屋根架構の同時施工の可能性の検討の余地はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	①屋根材料(ETFE)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。 ②可動屋根の開閉機構も検討する必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	部分的に規定の高さを超えている、壁面後退距離が一部不足
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	屋根が高さ制限を超えている(フラットな屋根で全般的に高さ約55m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	区道43-670側で一部後退距離が不足(第二球場付近)
土地利用構成	△	都営住宅跡地をアクセスとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	プランは要項の規定におおむね適合しているが、都営住宅跡地をアクセスとして活用する意図は窺えない。また、配置図に都営住宅が存置されており、全体で整合が取れていない。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	△	面積不足の可能性、要調整。屋上への過大な施設配置は懸念。
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	面積不足の可能性あり。要調整。
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。屋上への過大な施設配置は懸念。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	×	フィールド面積が不足。
スタジアムへのアクセス	△	駅との歩行者動線、車両動線が不明瞭について要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	・スタジアム周辺は地表からの全方向アクセスであるが、駅とをつなぐ動線は現状のままであり、混雑緩和対策が必要。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	△	・車両動線が不明瞭。西側よりVIPを誘導のコメントのみ
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	・競技者動線の記述なし(観客動線はあり)
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。屋上に多数の人を上げることへの懸念あり。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区は、地上部が屋根下に相当するので公園と扱えない場合、確保は難しい。新宿区は関連敷地を中心に確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。 公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると40%を確保できる可能性がある。屋上に多数の人を上げることの安全性は懸念。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	階段の表記なし、通路等の表現もやや曖昧
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式＋一部昇降。 可動席方式全体スライド方式＋一部昇降 可動ピッチ:スタジアム外へ移動 (可動方式・ルート不明)
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	VIP BOX、コンコース、スカイボックス、レストラン、カフェ、ラウンジ、バーなど。高齢者・障がい者対応。可動式の芝を備えスポーツ以外の利用に対応。学校・博物館・商業施設等を集約配置。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。移動型芝生育成システムが提案されている。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地下水利用、地中熱利用。大空間の空調への配慮(居住域空調)。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	部材の増強、高ライズ化など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	分割折りたたみ方式。開口面積調整可。耐久性、メンテ性の検討は必要。 可動屋根方式:分割折りたたみ方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	全体的に実現性はあると思われるが、芝可動システムの維持管理費に課題がある。
	施工性や工期等に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。芝生の搬送ルートや、移動機構の検討の必要がある。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	区道43-670号の線形が変更されている。
土地利用構成		△	都営住宅跡地を芝生養生スペース兼水盤。アクセス・オープンスペース利用上は課題あり。
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること)	○	
1)可動席は物理的、機制的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド式＋一部昇降
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		使用しないときは、屋外に可動可。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		ピッチ可動システム分高価と思われる。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案)		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	VIP BOX TOP 有 コンコース、スカイボックス、レストラン、カフェ、ラウンジ、バー ー全80室程度。高齢者・障がい者対応。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	○	可動式の芝を備えスポーツ以外の利用に適している。また、多様な動線計画を備える。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	学校・博物館・商業施設等を機能的に配置している。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。移動型芝育成システムが提案されている。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	ドライミスト、雨水再利用、地下水利用(蒸発潜熱利用)、太陽光発電、太陽熱給湯、自然換気、クールビット、地熱利用
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCC02含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調(床吹出し)
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑化、水景
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	○	移動型芝育成システムが提案されている。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムは成立する。部材の増強、高ライズ化など十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	折りたたみ屋根としてスパンが長く、屋根剛性が必要なため屋根板の厚みが相当必要であり、実現性に乏しい。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	△	若干、南側日射を確保した開閉機構とはなっている。しかし、固定屋根膜の透過性、折りたたみ後の有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	分割折りたたみ方式。開口面積調整可。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。可能であると思われる。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		膜の耐久性。メンテナンスはやや不安。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	全体的に実現性はありと思われるが、芝可動システムの維持管理費に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	芝可動システムの維持管理費に課題がある
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方(工期)	○	全体的には実現可能と思われる。芝生の搬送ルートや、移動機構の検討の必要がある。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	芝生の搬送ルートや、移動機構の検討の必要がある。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	区道43-670号の線形が変更されている。
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	△	区道43-670号の線形が変更されている。
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	都営住宅跡地を芝生養生スペース兼水盤であり、規制の土地利用範囲を逸脱
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	関連敷地(都営住宅)を芝生養生スペース兼水盤としており、アクセス・オープンスペース利用の検討が必要。また、区道43-670号の線形が変更されている。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	△	陸上競技では長辺方向両側が狭い。
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	周辺5駅と52451(人/時)の提案。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	外苑西通り側、東側の区道43-670側に各2カ所ずつ出入口を設置、VIP・選手・メディア・サービス等の分散配置(計画提案書より)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	競技者動線の記述なし(図面上では南西方面に通路があるが詳細不明)
公園面積、公開空地の割合	○	公園と公開空地の重複指定の整理が必要
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	渋谷区分は、スタジアムの配置・形状から、都道418号上空デッキを最大限活用しても確保できない可能性がある。新宿区分は、公開空地の確保を勘案すると、確保できない可能性がある。関連敷地の有効活用を検討する必要がある。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	△	範囲・面積・空地率が明示されており、40%を確保しているが、公園と重複カウントされている。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えると確保可能範囲内に40%を確保できる可能性がある。
・歩行者動線とって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目	確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目	確認の観点	
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○ 全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△ 駅からの動線、車両アクセスなど要調整。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△ 専用エントランスがあり、VIP関連諸室も60～70室程度確保されている。商業機能等は南側に集中配置されている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○ 環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地中熱利用、ナイトバージ、大空間の空調への配慮(居住域空調)
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○ アーチ架構の反力基礎部分の十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○ 折りたたみ方式。固定屋根トラス部に収納。 可動屋根方式:折りたたみ方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○
	施工性や工期等に関すること	△ 実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。屋根材料の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等		
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	最高高さが規定の高さを超えている(約80m)、壁面後退距離が一部不足
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要。
施設構成	○	
スタジアムへのアクセス	△	鉄道跨線橋デッキや414号車両アクセスについて要調整。
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策	△	緑化空間が不明瞭。地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等	○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確 認 事 項	確 認 結 果 (○・△・×)	所 見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		全体スライド式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		ユニークな外見。オーソドックスな内部。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	駅からの歩行者動線、車両アクセスなど要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	線路北側から渡ってアクセスする跨線デッキ2本をアクセスの重要な軸としており、調整が必要
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	車両動線が不明瞭。414号からの駐車場インについて要調整
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	専用エントランスがあり、VIP関連諸室も60～70室程度確保されている。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度であり具体的提案に乏しい
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	○	商業機能等が南側に集中配置されており、賑わい創出が期待される。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。大空間の空調に配慮した計画となっている。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	自然採光、地中熱利用、ナイトバージ、雨水再利用、自然換気、クールチューブ、太陽光発電、蒸発性クーリングシステム(雨水)
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	空中ランドスケープ、公園、屋上緑化
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	主架構は成立する。アーチ架構の反力基礎部分の十分な検討が必要である
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	可動式膜の折りたたみ収納として曲面収納や、収納スペースの再考が必要である。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保した開閉機構を有する屋根架構となっているか。	○	南側日射を確保した開閉機構とはなっている。固定屋根膜の透過性、有効開口部面積の確認が必要と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。	×	膜がしわになりやすく、補修費用などのメンテ費用の負担が大きいと思われる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	折りたたみ方式で、屋根トラス部長辺方向に収納。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。		なっていない。
		オーソドックスな技術と思われる。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	△	実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。屋根材料の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	実施設計完了前に建設工事着手の提案になっており、発注までのフローを検討する必要がある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特に見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	最高高さが規定の高さを超えている(約80m)、壁面後退距離が一部不足
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	×	最高高さ制限を超えている(約80m)
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り側で一部後退距離が不足
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	都営住宅が存置されており、都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。JRを超えて北側と連絡するデッキの提案がある。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	×	陸上トラックの表現なし。
スタジアムへのアクセス	△	鉄道跨線橋や414号車両アクセスについて要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	線路北側から渡ってアクセスする跨線デッキ2本について調整が必要
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	×	西通り線は利用せず。関係車両は国道414号との交差部からアクセス、(駐車場は区道43-690からアクセス)
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	Level1プランにスロープ表現
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキのサイズより、確保できない可能性がある。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	緑化空間が不明瞭。防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	△	緑化空間が不明瞭
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	外皮(壁天井)が二重膜で遮音の観点で有利である。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	90～100室程度のVIP関連諸質が完備されており、ホスピタリティ機能は十分である。カンファレンスセンターとしての提案も有る。モールタイプの商業・レジャーゾーンがあるが、4つのパートに分かれている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、節水型器具、無水小便器についてのキーワードのみ
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	部材断面を増強する必要がある。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	カメラシャッタースライド方式。詳細説明がない。 開閉屋根の面外剛性に問題があり十分な検討が必要である。 可動屋根方式:スライド方式(カメラシャッター方式)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	主体構造の実現性に課題がある。
	施工性や工期等に関すること	○	外装材料の検討や、屋根開閉機構を検討する必要がある。工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することの検討が必要。
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) []	○	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		内部はオーソドックスな構造で問題ないと思う。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	地表アクセスで、デッキ接続なし。現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	△	具体的な位置が不明瞭
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	外皮(壁天井)が二重膜で遮音の観点で有利である。
1)イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2)イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3)イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4)屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1)ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	90~100室程度のVIP関連諸質が完備されており、ホスピタリティ機能は十分である。カンファレンスセンターとしての提案も有る。
2)競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサート程度の記載であり、とぼしい。
3)競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	モールタイプの商業・レジャーゾーンがあるが、4つのパートに分かれており回遊性に乏しい
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1)最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	節水型器具、無水小便器、雨水再利用、排水再利用、太陽光発電
2)エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3)ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4)大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5)有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
6)芝の育成に対する提案はあるか。	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムは成立する。詳細な構造は十分な検討の必要あり。部材断面を増強する必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉屋根の面外剛性に問題があり実現性が極めて低い。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	日射面積は狭い。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。		カメラシャッター方式(スライド)光透過。カーボンファイバー2重膜。詳細構造要。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。詳細構造要。実施例？
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		先の例になったか。面外剛性確保。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	主体構造の実現性に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	システムの実現性に検討の余地がある
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	外装材料の検討や、屋根開閉機構を検討する必要がある。工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	外装の素材のカーボンファイバー膜の検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	△	都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	×	都営住宅が存置されており、都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	×	地表アクセスで、デッキ接続なし。現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	記載なし
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 渋谷区分は、スタジアムの配置、都道418号上空デッキがないことより、確保は難しい。新宿区分の確保のため、関連敷地を公園とすることを検討する必要がある。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	公園範囲の設定後、建物周りも含めて確保すると考えても40%を確保できない可能性がある。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	ロールバック方式。 可動席方式:ロールバック方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	盛土に埋まった構造なので防振・遮音に非常に有利である。吸音による室内音響への配慮も同様に
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	80室程度のVIP関連諸室が確保されており、スペースとしては十分である。南側に商業機能等が集中的に配置されている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 環境提案項目:雨水利用、地中熱利用、熱融通についてのキーワードのみ 芝生:芝生のための通風、芝生の張り替え(外部で再生後、再使用)提案あり
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	植栽・人などの上載荷重を考慮すると、トラスせい、部材断面をかなり大きくしたり、上載荷重の軽減など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	2層、上層は巻取り方式、下層はスライド。2重構造にして遮音性を確保。 開閉屋根機構の十分な検討が必要である。 可動屋根方式:巻取り方式、スライド方式 仕上材:膜
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	屋上躯体上に緑化が計画されているため、実現性、及び防水対策などの維持管理に課題がある。開閉屋根機構の実現性に課題がある。
	施工性や工期等に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。(工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。)屋上・斜面に植栽を含めた土壌設置が可能か検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	壁面後退距離が一部不足。
土地利用構成		△	参考提案としてホテル利用。
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
公園面積、公開空地の割合		△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要(盛り土の斜面が急勾配であることにも留意が必要)
緑化・環境配慮・防災対策		△	盛り土傾斜:北側約17°、南側約20°、東側約46°、西側約30°
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) []	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	ロールバック方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		内部はオーソドックス。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	東京体育館と部分デッキ接続。主は現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	スタジアム外周のコンコースとして確保。盛土内空間のため拡張余地がなく、要調整。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	盛土に埋まった構造なので防振・遮音に非常に有利である。吸音による室内音響への配慮も伺える。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	△	記載なし
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	80室程度のVIP関連諸室が確保されており、スペースとしては十分である
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサートに関する記載程度であり、具体的提案に乏しい。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	○	南側に商業機能等が集中的に配置されており、賑わい創出が期待される
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	地中熱利用、雨水再利用、自然換気、熱融通の重要性についてコメント、オフピーク時に余剰電力を周辺施設に供給、とあるがOGSや地域冷暖房についての記載なし
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCC02含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	△	記載なし
5) 有効な緑化計画がされているか。	△	記載なし
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	芝生のための通風、芝生の張り替え(外部で再生後、再使用)提案あり

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構システムとしては成立する。植栽・人などの上載荷重を考慮すると、トラスせい、部材断面をかなり大きくしたり、上載荷重の軽減など十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	開閉屋根の詳細がない。収納が困難と思われる。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	南側の日射を確保した屋根架構とはなっていない。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	△	2層の可動式上層巻取り、下層スライド。2層構造はむしろSound Insulation(遮音)のため。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	屋上躯体上に緑化が計画されているため、実現性、及び防水対策などの維持管理に課題がある。 開閉屋根機構の実現性に課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。(工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。)屋上・斜面に植栽を含めた土壌設置が可能か検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案がなく、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	屋上の利用への架設の作り方に検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	壁面後退距離が一部不足
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	△	外苑西通り側で壁面後退なし
土地利用構成	△	参考提案としてホテル利用
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	△	都営住宅敷地にホテルを参考提案している。同提案を取り下げた場合に、都営住宅敷地において規定の範囲内の土地利用がなされることが読み取れない。都営住宅敷地をアクセス・オープンスペースとして活用することを検討する。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	△	都営住宅敷地にホテルを参考提案している。参考提案であるため、これをもって直ちに要項に抵触していると判断すべきではないと考える。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	△	東京体育館と部分デッキ接続。主は現在の道路空間利用のままであり、駅に向かう歩行者動線について混雑対策を要調整。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	プレイヤー用出入口を区道43-670側に用意(徒歩)
公園面積、公開空地の割合	△	公園・公開空地の確保について検討・調整が必要。
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	×	範囲・面積の記載がない。 スタジアムを埋設する計画のため、道路上空デッキも関連敷地の活用もないが、両区ともスタジアム敷地内で確保できる可能性が高い。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	△	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	×	範囲・面積・空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	△	スタジアムを埋設する計画のため、公園範囲の設定後、建物上部・屋上を活用して確保可能範囲内に確保できる可能性が高い。
・歩行者等にとって快適で良い位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	△	盛り土傾斜
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	△	盛り土傾斜:北側約17°、南側約20°、東側約46°、西側約30°
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	避難場所(行く先)について、検討を要す
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	避難場所(行く先)について、検討を要す
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	ロールバック方式。 可動席方式:ロールバック方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	天井吸音パネルによる室内音響に対する配慮、天井パネルおよび建具による騒音抑制への意識が伺える。また、外周がダブルスキン構造のため、遮音上も非常に有利。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	具体的な数量の表記がないが、十分な広さのホスピタリティ関連機能のスペースを確保している。フィールド転換システムを有しており、スポーツ以外のイベントの開催に適している。また、天井もイベントに活用可能である。南側に集中した商業機能等の配置となっている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地下水利用、CGS、光触媒。エネルギー多重化、大空間の空調への配慮(居住域空調) 芝生:天然芝をイベント床へ転換するフィールド転換システム。膜構造による光、通
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△(×)	円周方向の効果を活用できていないため、架構システムの強化など十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	長辺スライド方式。オーソドックス。開閉屋根の移動用レール支持と移動屋根の構造について十分な検討が必要。 可動屋根方式:長辺スライド方式 仕上材:ETFE
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	△	主体構造の実現性に課題がある。構造の機構、外装の素材によっては、コスト超過の課題がある。
	施工性や工期等に関すること	○	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。全体的には実現可能と思われる。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		△	可動屋根が開放時に関連敷地(都営住宅敷地)まで移動。
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	階段の表記なし。スタンド内通路も不足しているが、対応可能と思われる。

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) [REDACTED]	○	
1)可動席は物理的、構造的に実現可能と想定できるものか。	○	ロールバック方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		問題なし。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	南西側に1/23の緩い勾配のマラソンルート
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	天井吸音パネルによる室内音響に対する配慮、天井パネルおよび建具による騒音抑制への意識が伺える。また、外周がダブルスキン構造のため、遮音上も非常に有利。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	残響時間目標値が具体的に設定されている
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	外部騒音目標値が設定されている。
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	具体的な数量の言及はないが、十分な広さのホスピタリティ関連機能のスペースを確保している。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	○	フィールド転換システムを有しており、スポーツ以外のイベントの開催に適している。また、天井もイベントに活用可能である。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	南側に集中した商業機能等の配置に加え、周辺施設との相乗効果でにぎわい創出が期待される。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	太陽光発電、太陽熱給湯、風力発電、井水利用、雨水再利用、光触媒(壁・屋根)による大気のNox浄化、居住域空調、CGS、自然採光
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	○	電気・ガス併用熱源、電力の2重引き、太陽光発電・風力発電・自家発電による創エネ
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	「Forest Skin」により運用時のCO2排出を最大限削減、という記載あり
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	環境の杜、壁面緑化
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	○	天然芝をイベント床へ転換するフィールド転換システム。膜構造による光、通風の確保。人工照明。

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△(×)	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△(×)	アーチユニット同士のつなぎ部の力のやり取りに課題があり、外周方向の効果を活用できていないため、架構システムの強化など十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	×	スライド機構に対する記述がない。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	日射面積は確保されていない。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	不明	開閉屋根機構の詳細がないため判断できない。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	長辺スライド。140×110。楕円。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		オーソドックスな開閉機構。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	△	主体構造の実現性に課題がある。構造の機構、外装の素材によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	スライド機構に検討の余地あり。
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	外装の素材の選定によっては、コスト超過の課題がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えるか。	△	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	屋根材料の大臣認定取得に時間を要する可能性がある。全体的には実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	検討されている
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	○	地下工事の縮減、プレキャスト化、内外装材の工場ユニット化、など。
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	屋根材料(ETFE)の大臣認定取得が必要となる可能性が高い。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	△	可動屋根が開放時に関連敷地(都営住宅敷地)まで移動
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	×	可動屋根が開放時に都営住宅敷地まで移動
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	△	ゾーニングが不明瞭。
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	一般車駐車場出入口、VIPで入口を外苑西通り側に設置、南側の区道43-690にも駐車場出入口を設置
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積の記載があり、確保可能範囲内に計画されている。 渋谷区分は、地上と人工地盤の2層とされており、公園と見なせない部分を含む可能性がある。新宿区分は、関連敷地が中心だが2層の部分を含んでいる。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率の記載がある。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	地盤面と人工地盤の2層で確保する計画であり、確保可能範囲内である。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	エネルギーの多重化
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	階段の表記なし。スタンド内通路も不足しているが、対応可能と思われる。
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	階段の表記なし。スタンド内通路も不足しているが、対応可能と思われる。
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式。 可動席方式:全体スライド方式
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	吸音ルーバー、遮音スクリーンなどによる室内音響・遮音への配慮がうかがえる。さらに防振も意識し、大容量ダブルスキン空間は遮音にも極めて有利に働く。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	VIPラウンジ等各種のホスピタリティ機能を備えている。ピッチ面はを分割し水平移動が可能であり、スポーツ以外のイベント開催に適している。南北に商業機能等が分割配置されているものの、南側に大半の機能が備えられている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、地中熱利用、ドライミスト、ダブルスキン。エネルギー多重化、大空間の空調への配慮(居住域空調)。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	屋根部材や屋根支持部材の部材断面の増強などの十分な検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	折りたたみ方式。耐風性の検討を要する。 可動屋根方式:折りたたみ方式 仕上材:膜・中空ポリカーボネート
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	外装の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
	施工性や工期等に関すること	○	全体的には実現可能と思われる。外装のUMUフィルムの技術的実現性・維持管理面の検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
0		○	
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) []	○	
1)可動席は物理的、機制的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
		フィールドの昇降有。ピッチ格納。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	都道414号上に千駄ヶ谷駅とつながる新設デッキを提案。
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	サブトラック連絡通路(車両通行可)を設置
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	東京体育館とつなぐデッキ空間の幅について要調整

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	吸音ルーバー、遮音スクリーンなどによる室内音響・遮音への配慮がうかがえる。さらに防振も意識し、大容量ダブルスキン空間は遮音にも極めて有利に働く。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	残響時間目標値が具体的に設定されている
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	天井の遮音、土留壁による振動防止にも言及している。
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	VIPラウンジ等各種のホスピタリティ機能を備えているが、広さに欠けるきらいがある。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	○	ピッチを分割し水平移動が可能であり、スポーツ以外のイベント開催に適している。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	○	南北に商業機能等が分割配置されているものの、南側に大半の機能が備えられており、各種賑わい創出機能の提案も幅広い。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	太陽光発電(4MW・蓄電池2MWH)、地中熱利用、雨水再利用、クールピット、居住域空調、床冷輻射、ドライミスト、ポーラス壁面による気化熱利用、自然換気、ダブルスキン、自然採光
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	○	太陽光発電(4MW) + 蓄電池(2MWH)、非常用発電機(2MW)による電源確保
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	グリーンループ内の緑化
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	○	太陽光追従反射システム、養生用LED照明、通風の確保

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	バックステイ付き片持ち梁で、架構システムとしてシンプルであるが、先端たわみを考えると、屋根部材や屋根支持部材の部材断面の増強などの十分な検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	○	開閉システムはシンプルであり可能性はある。開閉屋根の梁サイズに再考の必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	閉時には開口が小さくなる可能性がある。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	折りたたみ方式。膜テフロン。中空ポリカーボネート。遮光/遮音性。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっているか。		なっていない。
		耐風性の検討を要する。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	外装の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	外装の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	メンテナンス費用が掛かる懸念があり、課題がある。
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的には実現可能と思われる。外装のUMUフィルムの技術的実現性・維持管理面の検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	△	駐車場が計画されており、工事時期を検討しておく必要がある。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	○	山留め等架設の単純化、総掘り化、Poa化、など
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	外装のUMUフィルムの検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	外装のUMUフィルムの検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	414上に千駄ヶ谷駅とつながる新設デッキを提案。
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	地下道で結ぶ
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積の記載があり、確保可能範囲内に計画されている。 渋谷区分は、同じ範囲の2層で計画されているため、下層部分を公園と見なせない可能性がある。新宿区分は関連敷地を中心とした確保である。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率の記載がある。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	人工地盤面で確保する計画であり、確保可能範囲内である。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に配置されているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	自家発電
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド方式。+仮設(フィールド大降時) 可動席方式:全体スライド方式+仮設
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○	
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	室内音響に対する高い意識が伺える。また可動壁や二重の可動屋根により遮音にも対応。熱、音、通風と複数分野にまたがる環境シミュレーションも行っており、技術力の高さが伺える。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	○	VIP専用スペースが他と比べてやや小さい。しかし、芝生を収容する昇降式システムを有しており、スポーツ以外のイベント開催に適している。また、南側中心の商業機能等の賑わい創出機能の配
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。 環境提案項目:雨水および太陽光利用、CGS、地中熱利用、既存インフラのネットワーク化、居住域空調についてのキーワードのみ
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	架構曲面、スタンドと屋根架構の接合部の詳細な検討により改良が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	短辺スライド方式。2分割。オーソドックス。 可動屋根方式:短辺スライド方式 仕上材:保水セラミックス
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	複雑な外観であり、外装の素材選定によっては、コスト増の懸念がある。
	施工性や工期等に関すること	△	工事期間の提案はあるが、形態も複雑であり、詳細工程の検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		○	
施設構成		△	スタジアム内コンコース等の動線空間不足の可能性あり。
スタジアムへのアクセス		○	
公園面積、公開空地の割合		○	
緑化・環境配慮・防災対策		○	
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		△	upper stand 上部からの避難距離が長すぎる。出口、通路等の追加が必要となる可能性大。

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) ■■■■	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド方式。仮設(フィールド大降時)
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) ■■■■		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 ■■■■	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	多様なイベントに応じた”もぎり”のモード変換が可能な空間利用。サブトラック接続動線
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 ■■■■	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	室内音響に対する高い意識が伺える。また可動壁や二重の可動屋根により遮音にも対応。熱、音、通風と複数分野にまたがる環境シミュレーションも行っており、技術力の高さが伺える。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	形状や容積に着目した専門的な記述あり。
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	建築音響との絡みでの利点に関する記述やスピーカシステムに関する具体的記載あり。
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	○	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	VIP専用スペースが他と比べて小さい。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	○	芝生を収容する昇降式システムを有しており、スポーツ以外のイベント開催に適している。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体的な展開イメージについて記載があるか	○	南側中心の商業機能等の賑わい創出機能の配置であり、期待できる。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体的な記述が実現性をもってなされているか。	○	自然換気、地下水輻射冷房、地下鉄湧水利用、雨水再利用、CGS、太陽光発電、下水道排熱利用、地域冷暖房、地中熱利用、置換換気、LED照明
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	既存インフラを広域ネットワーク化し、都市インフラのバックアップ化を図る、という記載のみ
3) ランニングコスト(LCC・LCOO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調(床輻射)
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑のネットワーク
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	芝移動システムについての記載はあるが、育成について記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	架構曲面、スタンドと屋根架構の接合部の詳細な検討により改良が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉屋根のスライド及び断面剛性に再考の必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開口面積が狭い。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	短辺スライド。2枚分割。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっている。
		外観はユニーク。機構はオーソドックス。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	外装の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	○	
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	外装が複雑な構成のため検討の必要がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方(工期)	△	工事期間の提案はあるが、形態も複雑であり、詳細工程の検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、形態も複雑であり、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	セラミックタイルの固定方法など、個々の材料の収まりについては検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	△	スタジアム内コンコース等の動線空間不足の可能性あり
・観客席が8万席以上確保されているか。	△	スタジアム内コンコース等の動線空間不足の可能性あり
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線の図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	選手用連絡地下通路を設置
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	渋谷区分は、都道418号上空デッキを中心とし、新宿区分は、関連敷地を中心とする計画である。
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率の記載がある。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	人工地盤面で確保する計画であり、確保可能範囲内である。
・歩行者等にとって快適で良好な位置に配置されているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	排熱、湧水の未利用エネルギーを蓄熱・貯水し、災害時の負荷増に備える
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	△	upper stand 上部からの避難距離が長すぎる。出口、通路等の追加が必要となる可能性大。
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	△	upper stand 上部からの避難距離が長すぎる。出口、通路等の追加が必要となる可能性大。
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目			
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	△	無。屋根開口部側面スクリーンで臨場感を演出していると思われる。可動席方式:無
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	△	車両アクセス位置、広場的空間について要調整。
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	周囲は閉塞、屋根構造は2層構造とすることで遮音にも配慮している。
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	58のVIPボックスに加え3000席のビジネスクラブを有しており、ホスピタリティ関連機能は十分である。暖かい施設はスタジアムの南と北に分割されている。
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	△	ケーブルの長いサスペンション構造の高度な技術が必要である。同芯円でないため、外周部の放射方向力に対する抵抗として、部材の増強の検討が必要である。
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	△	巻取り方式。詳細不明で判断困難。
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○	外装材の素材選定によってはコスト超過の懸念がある。屋上躯体上に緑化が計画されており、実現性と維持管理に課題がある。可動屋根材について、しわを生じることが予想され、補修、メンテナンス費用の負担が懸念される。
	施工性や工期等に関すること	△	可動屋根(膜)の開閉機構の検討が必要である。詳細工程の検討が必要である。
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等			
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○	
土地利用構成		○	
施設構成		○	
スタジアムへのアクセス		△	車両アクセス位置について要調整。
公園面積、公開空地の割合		○	屋上公園の安全性確保に留意。
緑化・環境配慮・防災対策		○	地域に対する防災対策が必要。
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○	

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関する事) [REDACTED]	△	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。		無
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)		
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。		
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		
		屋根開口部側面スクリーン等でダイナミックなイメージ
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) [REDACTED]		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 [REDACTED]	△	車両アクセス位置について要調整
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	×	西通りは車寄せだけで、他は43-690や43-670に依存。アクセス位置について要調整。
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	△	記載なし
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 [REDACTED]	○	広場的な空間設置について要調整
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	建物外周と線的な歩行者空間上に設定。広場的な空間の設置について要調整

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	周囲は閉塞、屋根構造は2層構造とすることで遮音にも配慮している。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	△	記載なし
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	△	記載なし
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	○	58のVIPボックスに加え3000席のビジネスクラブを有しており、その他ホスピタリティ関連機能も十分である。
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体的なイメージや実施方法等の提案があるか。	△	コンサートに関する記載はあるが、乏しい。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	南北に賑わい機能が分割されており、効果が薄い。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	△	環境配慮に対する提案が乏しい。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	置換換気、太陽光発電、地中熱利用、雨水再利用、床冷暖房、自然換気、自然採光
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	△	記載なし
3) ランニングコスト(LCC・LCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	△	記載なし
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調(床輻射+置換換気)
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑化あり
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	△	記載なし

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	△	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	△	300m近いテンション材で構造システムを成立させるには、応力、変位に問題が残る(クリープ、温度)がケーブルの長いサスペンション構造の高度な技術で実現できる。同芯円でないため、外周部の放射方向力に対する抵抗として、部材の増強の検討が必要である。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	屋根開閉システムの詳細がない。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	開口面積が狭い。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	×	しわになってしまい、膜の補修・取替えコストがかかる。
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	△	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	△	巻取り式。詳細不明。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	外装材の素材選定によってはコスト超過の懸念がある。屋上躯体上に緑化が計画されており、実現性と維持管理に課題がある。可動屋根材について、しわを生じることが予想され、補修、メンテナンス費用の負担が懸念される。
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	○	システムの実現性に検討の余地がある
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	詳細不明
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	△	掘削深さが-13.5m程度あるため、コストへの影響の懸念される。外装材の素材選定によっては、コスト超過の課題がある。
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	屋上躯体上に緑化が計画されており、実現性と維持管理に課題がある。
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方(工期)	△	可動屋根(膜)の開閉機構の検討が必要である。詳細工程の検討が必要である。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	△	工事期間の提案はあるが、地下工事もあるため、詳細工程の検討が必要である。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	△	提案なし
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	△	PVC-PES膜?の検討が必要である。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	△	可動屋根の開閉機構の検討が必要である。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	△	車両アクセス位置について要調整
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線をアレンジして図示(新宿御苑～千駄ヶ谷駅とペデデッキで結ぶ)
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	×	VIP車寄せのみ外苑西通り側に設置。他は区道43-690及び43-670からアクセス。
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	○	外苑側に地下通路を設置
公園面積、公開空地の割合	○	屋上公園の安全性確保に留意
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積の記載があり、確保可能範囲内に確保されている。 渋谷区分は、敷地内を中心に都道418号上空デッキを含めた確保である。新宿区分は、関連敷地及びスタジアム屋上としている。 屋上公園の安全性確保に留意が必要である。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	△	範囲・面積の記載はあるが、空地率の記載がない。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	デッキレベルで確保する計画であり、確保可能性範囲内にある。
緑化・環境配慮・防災対策	○	地域に対する防災対策が必要
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	△	記載なし
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	3階客席の出口がやや少ない
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	3階客席の出口がやや少ない
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

技術調査の確認リスト【総括表】

項目		確認結果(○・△・×)	所見	
1.「テーマ別の計画提案」に示した項目				
①臨場感あふれる観覧席に関する考え方	可動客席等に関すること	○	全体スライド。テーブルリフトで昇降そしてスライド。	可動席方式:ロールバック方式+テーブルリフト 可動ピッチ:スタジアム外へ移動
②観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方	アクセス及び入退場動線に関すること	○		
③ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方	音響環境に関すること	○	要検討項目の整理はされているようだが具体的提案はないので注意が必要。	
	ホスピタリティ機能等、事業計画に関すること	△	VIP関連諸室が少ない。また、図面上ミュージアム等の記載はあるが、規模感に疑問。ただし、芝生の移動が可能であり、スポーツ以外のイベント開催に適している。	
④環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギーの多重化及び緑化等)	省エネルギー技術等に関すること	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化、LCCについて提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。	環境提案項目:雨水および太陽光利用、地中熱利用、CGS、LED照明。エネルギー多重化、LCCへの配慮、大空間の空調への配慮(居住域空調)。
⑤構造計画、屋根の架構に関する考え方	構造計画に関すること	○	部材の増強や木材利用には十分な検討の必要がある。	
	屋根の架構及び開閉機構に関すること	○	カメラシャッタースライド方式。8枚分割。面外剛性を保つ工夫がありそう+免震採用。	可動屋根方式:スライド方式(カメラシャッター方式)
⑥事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)	事業費(建物本体・外構部分)に関すること	○		
	施工性や工期等に関すること	○	全体的に実現可能と思われる。	
2.「デザイン提案条件」に規定している事項等				
施設建築物の配置(配置及び高さ)		○		
土地利用構成		○		
施設構成		○		
スタジアムへのアクセス		○		
公園面積、公開空地の割合		○		
緑化・環境配慮・防災対策		○		
防災・避難計画及び法令等に抵触することが明らかな事項等		○		

技術調査の確認項目【確認項目表(1):「テーマ別の計画提案」に示した①～⑥の項目のうち技術的確認が必要な事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
①-1.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (可動客席等に関すること) []	○	
1)可動席は物理的、機構的に実現可能と想定できるものか。	○	全体スライド。テーブルリフトで昇降スライド。
2)可動席の設定範囲はほぼ適切といえるものか(極端に偏る等していないかなど)	○	
3)可動席を利用していない時の雰囲気には支障はないか。	○	
4)トラック等床面の養生等無理な方法となっていないか。		なっていない。
5)可動席の運営に過大な費用を要する内容となっていないか。		なっていない。
①-2.臨場感あふれる観覧席に関する考え方 (その他大掛かりな機構の提案) []		
(例:ピッチの分割、移動など(札幌ドームの芝面))あれば部位を記す		
・①-1と同様のチェックを行う。		
②-1.観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセスに関する考え方 []	○	
1)駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線を図示
2)車動線および駐車場配置の提案がなされているか。	○	
3)オリンピック等大規模なイベント時のアクセス等について特別な提案がなされているか。	○	南口にゲート広場を設け、マラソンゲートと一体利用
②-2.観客等の入退場動線処理に関する考え方 []	○	
1)スタジアムの外に人だまり空間が提案されているか。	○	

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
③-1.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(音響環境)	○	要検討項目の整理はされているようだが具体的提案はないので注意が必要。
1) イベント利用時の音響環境(建築音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	要検討項目の列挙のみ
2) イベント利用時の音響環境(電機音響)について記述があるか。 ある場合、実現性のある内容となっているか。	○	要検討項目の列挙のみ
3) イベント利用時の遮音や振動について考慮されているか。	○	要検討項目の列挙のみ
4) 屋根の開閉に対応した音響環境を考慮しているか。	○	要検討項目の列挙のみ
③-2.ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方(事業計画)	△	
1) ホスピタリティ機能について効果的な提案がされているか。	△	VIP関連諸室が10室程度であり、収益性に乏しい
2) 競技場施設のスポーツ以外の利活用について具体のイメージや実施方法等の提案があるか。	○	芝生の移動が可能であり、スポーツ以外のイベント開催に適している。
3) 競技場周辺を含めた、イベント非開催時の商業・文化等の機能の提案、具体の展開イメージについて記載があるか	△	ミュージアム等の記載はあるが、規模感があわず具体性に乏しい。
④.環境配慮に関する考え方(省エネ、エネルギー多重化及び緑化等)	○	環境技術に対して十分提案されている。エネルギー多重化の提案がある。LCCについて提案がある。大空間の空調に配慮した計画となっている。芝生の育成について提案がある。
1) 最先端の環境技術を備える提案や具体の記述が実現性をもってなされているか。	○	自然採光、自然換気、クールビット、太陽光発電(895kW)、雨水再利用、CGS、地中熱利用、居住域空調、LED照明
2) エネルギーの多重化など非常時の設備的対応について提案されているか	○	自立型CGSによる電力確保
3) ランニングコスト(LCC・LCCO2含む)や維持管理方法等について配慮されているか	○	年間消費エネルギー40%削減(2000年比)
4) 大空間(観覧席やコンコース)の空調等の記載があるか。(実現性や効果は期待出来るか)	○	居住域空調
5) 有効な緑化計画がされているか。	○	緑の丘(多重緑庇)
6) 芝の育成に対する提案はあるか。	○	芝フィールドを場外へ移動して養生

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
⑤-1.構造計画に関する考え方	○	1)を評価対象とし、2)3)4)は別分野での評価とし参考評価とした。
1)全体的に大空間を支えられる現実的な構造となっているか。	○	架構システムとしては成立するが、木材利用には十分な検討の必要がある。部材の増強などの十分な検討の必要がある。
2)開閉機構を支える屋根架構は、技術的に可能な提案となっているか。	△	開閉機構としてはカメラのシャッターのような機構となっている。開閉時の剛性、開閉途中の剛性の変化に問題があり、再考の必要がある。
3)芝の管理の負担を軽減するために南側の日射を確保をした開閉機構を有する屋根架構となっているか。	×	南側日射の配慮はされているが、不十分と思われる。
4)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。	○	
⑤-2.屋根の架構及び開閉機構に関する考え方	○	
1)開閉式屋根の機構提案は、構造的、技術的に実現可能か。	○	カメラシャッター式(スライド)18枚/6分割と考える。
2)過大な建設費用を要することとなっていないか。		要さない。
3)特殊な構造によりランニングコストや管理方法等について過大なものとなっていないか。		なっていない。
		◎面外剛性を保つような工夫有。免震。カメラシャッター式では一番理解しやすい。
⑥-1.事業費(建物本体/外構部分)に関する考え方 (事業費)	○	
1)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動屋根)	△	システムの実現性に検討の余地がある
2)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(可動席)	△	メンテナンス費用が掛かる懸念があり、課題がある。
3)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(外装・地下の範囲)	○	
4)工事費及び維持管理費が過大にならないよう配慮されているか。(環境配慮)	○	
5)全体的に想定価格に納まっていると言えそうか。	○	
⑥-2.施工性や工期に関する考え方 (工期)	○	全体的に実現可能と思われる。
1)工期を要する特殊な要素がないか。(地下・特殊構造など)	○	実現性はある。
2)現場に工事ヤードを広く必要とする工法となっていないか。(ヤードの確保は難しい)	○	問題は見当たらない。
3)設定工期での実現や工事の影響を低減するために効果的な工法の提案はあるか。	○	Pca化、など
4)入手が困難な材料や機器等の使用はなされていないか。	○	特には見当たらない。
5)品質に支障をきたす要素がないか。	○	提案の内容には、特には見当たらない。

技術調査の確認項目【確認項目表(2):「Ⅱ.デザイン提案条件」に規定している事項】

確認事項	確認結果 (○・△・×)	所見
施設建築物の配置(配置及び高さ)	○	
・スタジアムは施設建築範囲内に建築されているか。	○	
・各位置における最高高さの制限は満たしているか。	○	
・敷地境界線から8mの後退距離を確保しているか。	○	
土地利用構成	○	
・規定の範囲内の土地利用がされているか。	○	要項の規定に適合している。なお、区道43-690号の線形変更を参考提案している。
・関連敷地に新たに建築建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築していないか。	○	要項に抵触するような提案はない。
施設構成	○	
・観客席が8万席以上確保されているか。	○	
・規定の施設構成(導入機能と規模)が確保されているか。	○	
・ラグビー、サッカー、陸上競技等の関連規定を満たすフィールドが設けられているか。	○	
スタジアムへのアクセス	○	
・駅からスタジアムまでの歩行者アクセスについて提案がなされているか。	○	要項と同じ動線を図示
・車両のメインアクセスは都道418号(外苑西通り)側に設置されているか。	○	
・サブトラック、投てき練習場からの移動を考慮した競技者動線が提案されているか。	△	南西側からの搬入動線を利用(計画提案書ではバックヤード動線と選手動線がつながっている)
公園面積、公開空地の割合	○	
・既設公園と同規模以上の面積を各区の範囲内に確保しているか。 (渋谷区:約22,000㎡、新宿区:約12,000㎡)	○	範囲・面積が明示されており、両区とも確保可能範囲に確保されている。 渋谷区分は、都道418号上空デッキを中心とするが、一部、都道418号沿い地上部の狭小な範囲は公園と見なせない可能性がある。 新宿区分は、関連敷地を中心とする計画である。
・「公園の再配置が可能な範囲」内に公園が配置されているか。	○	
・敷地面積の40%以上の公開空地が確保されているか。	○	範囲・面積・空地率の記載がある。 スタジアム周囲の地盤面(TP24m)で大部分を確保する計画であり、確保可能範囲内にある。ただし、標高の高い東側(TP32m)には法面で接続するような形である。
・「公開空地の確保が可能な範囲」内に公開空地が配置されているか。	○	
・歩行者等にとって快適で良好な位置に設けられているか。		
緑化・環境配慮・防災対策	○	
・緑化・環境に対して、特別な提案がなされているか。	○	
・防災対策に対して、特別な提案がなされているか。	○	自立型コジェネ
防災・避難計画および法令等に抵触することが明らかな事項等	○	問題なし
・災害発生時等緊急時に対応した避難計画となっているか。	○	
・災害発生時の避難場所としての機能や動線等について配慮されているか。	○	
・その他あきらかに法令に抵触する事項があるか。	○	

